

新年によせて「ことづくりは人の縁」



明けましておめでとうございます。旧年中は、オアシスの経営に格別のご協力・ご尽力をいただき誠にありがとうございました。本年も旧年同様よろしくお願いいたします。

長きにわたる平成の時代を去るにあたり、積年の埃を払い落としてくれるような新風を感じられているのではと思いますが、みなさんは新時代のカレンダーに、何を記そうと期待されていますか。

さて、次代への転換点にあたりカンボジア支援活動の10年を振り返ってみる時、そこには常にチア・ノル夫妻、チュム・ルー校長を始めとした現地教育界・日本人会の人々との『幸運の人脈』がありました。また、この間オアシスメンバーが約3倍に増えたこと背景には、多彩な才覚と技能、さらに寛容な人格を持った『社会派的なオアシス人脈』が広がる中、さらなる支援者を呼び込みより確かな実績を積み上げきた結果であるにとらえています。

かの戦国武将武田信玄が「人は石垣、人は城」と唱えたことは衆知の通りですが、私たちオアシスの事業も、まさに「人は城（こと）」なんですね。多くのNPO団体が組織を停滞・縮小している中、手前味噌ですが、私たちの組織は確実に拡大発展してきています。当然のこととして、事業の成果も質的には右肩上がりであると思っています。

これまでの各事業の成果は、本会成員のみなさんの叡智と労力、そしてそれぞれの皆さんの私財の犠牲の上に成り立っていることを忘れるわけにはいきません。それらの犠牲に報いることは並大抵のことではありませんが、それぞれの成果を世間に披露し評価を得ることで、やっていることのよさを自覚する場をもつことがそれなりの報いに繋がると考えます。これらのよさを自覚することで、生きる自信を高めたり先々の期待へと発展したりしていくものです。

カンボジアの地で「期待の種を蒔く」ことが、「自分自身の将来への期待の種蒔き」になることを祈念してやみません。

ますます実りの多い一年でありますように。

平成31年元旦

特定非営利活動法人オアシス理事長 足立 泰敏